

登録コード	MA730300	開講年度	2026			
授業科目名	リプロダクティブ・ヘルス看護学演習				担当教員	中込 さと子 他
英文授業名	Practice in Reproductive Health				副担当	金井 誠・芳賀 亜紀子・徳武 千足
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	月曜・1時限 月曜・6時限	対象専攻 / 学年
講義室			授業形態	演習	授業科目区分	選択科目
信大コンピテンシー	該当					
(1)授業の達成目標	【ディプロマ・ポリシー】授業で得られる「学位授与の方針」要素					
	MS 2 6カリ(保健学), MS 2 5カリ(保健学), MS 2 4カリ(保健学), MS 2 3カリ(保健学)					
	【研究科共通】医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。				セクシャルリプロダクティブヘルス・ライツと看護に関する社会情勢、個人のニーズ、医療体制を概観し、看護独自の課題を見極める力を獲得する。	
	【保健学】保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。				セクシャルリプロダクティブヘルス・ライツに関わる社会問題を解決を目指す課題毎に適切な看護研究方法を選択する力を養う。	
(2)授業の概要	リプロダクティブ・ヘルスに関連する研究課題を明確にし、関連文献のレビュー、臨床のフィールドワーク、研究枠組みの明確化と概念定義、仮説の明確化、研究デザインの選定、プロトコルの作成まで学びます。 本講義は、担当教員のリプロダクティブヘルス領域の研究実務経験を活かして講義を行います。					
(3)達成目標（一般学習目標GIO）	リプロダクティブヘルス・ライツ領域における諸課題に対し、看護学研究を用いて解決する能力を習得する。					
(4)達成目標（個別行動目標SBOs）	1．リプロダクティブ・ヘルス／ライツに関係した領域における自己の研究課題を明確にできる。 2．自己の研究課題に関連する文献を収集し、レビューレポートを書くことができる。 3．自己の研究課題の研究フィールドの必要要件、除外要件を明確にし、フィールド調整ができる。 4．自己の研究課題の枠組みを明確にし、概念的定義・仮説を明確にできる。 5．研究デザインを選択し、プロトコルを作成できる。					
(5)授業計画	開講日時は受講生と検討のうえ決定します。 第3，7，12，15回は月6限、他は月1限に行います。 第1回（9月28日）看護研究の基礎 研究のステップ 第2回（9月28日）問題の明確化とその範囲の限定（中込） 第3回（10月5日）リプロダクティブヘルスに関する研究（1）心理学研究（中込） 第4回（10月5日）研究の概念について（中込） 第5回（10月19日）文献レビュー（中込） 第6回（10月19日）文献のクリティーク（中込） 第7回（10月26日）リプロダクティブヘルスに関する研究（2）看護学研究（徳武） 第8回（10月26日）臨床のフィールドワークの着手の準備（中込） 第9回（11月9日）フィールドの選定（中込） 第10回（11月9日）研究枠組の明確化と概念的定義・仮説の明確化（中込） 第11回（11月16日）研究デザインの選択1（中込） 第12回（11月16日）リプロダクティブヘルスに関する研究（3）看護学研究（芳賀） 第13回（11月30日）研究デザインの選択2（中込） 第14回（11月30日）測定とデータ分析（中込）授業アンケート 第15回（12月14日）リプロダクティブヘルスに関する研究（4）産科学研究（金井）					
(6)授業の進め方	講義は、学生が研究課題を紹介し、それを基に学生と教師とで研究疑問の焦点化、文献レビュー、研究枠組みの作成、フィールドの選定、研究デザインの決定、データ収集、測定について検討し、研究計画書作成の基盤とします。					
(7)履修上の注意・事前事後学習の内容	授業前後には必要な時間、予習と復習に当てること。 毎回の授業内容の欄に、教科書や副読本で予習しておくべき個所を指定する。 第1-2回 テキスト 第 部 看護研究の基礎 研究のステップ （中込） 第4-6回 テキスト 第 部 研究の概念 文献レビュー等 （中込） 第8-9回 テキスト 第 部 フィールドの選定（中込） 第10-13回 テキスト 第 部 量的研究と質的研究（中込） 第14回 テキスト 第 部 測定とデータ収集（中込） 第3，7，12，15回は担当教員から事前に提案します。					
(8)成績評価の方法	学生の研究計画立案にあたって論理性、妥当性、新規性の観点から評価します。 研究の3つのステップを踏み、レポートを書く。 中間レポート 興味ある関連領域の文献を3つ選び、以下の観点からレポートを書く。 第1レポート 各研究の研究疑問の設定について（20%） 第2レポート 各研究の研究デザインの設定について（20%） 第3レポート 各研究のサンプリングの設定について（20%） 期末レポート 修士論文に取り上げる研究課題を決定し、研究の背景をまとめる。（40%）					

(9)成績評価の基準	学生の理解度や姿勢および中間レポートと期末レポートの内容の評価基準は以下とします。 (i) 問題の設定が適切であり，(ii) その問題の背景を説明できており，(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており，(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており，(v) その上で自分の見解を提示できており，かつ，教員を感心させるレベルにあれば「卓越している（秀）」。(i) から (v) の5項目を満たしていれば「かなり上にある（優）」。4項目までできていれば「やや上にある（良）」。3項目までできていれば「合格水準にある(可)」。
(10)学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	質問，相談は，授業時だけでなく，メールでも随時，受け付けます。 snakagomi@shinshu-u.ac.jp(中込さと子)、akihaga@shinshu-u.ac.jp(芳賀亜紀子)、ctokuta@shinshu-u.ac.jp(徳武千足)、makotok@shinshu-u.ac.jp(金井誠)
【テキスト，教材，参考書】	随時紹介するが，各学生の研究テーマに関連する理論を用います。 必携図書 D.F.Polit & C.T.Beck,看護研究 原理と方法 第2版,医学書院,2010.